

「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」進捗評価結果表

研究テーマ(領域)	工学的知見の活用による能楽「型付」の記述ルール及び技芸伝承システムの解明	
研究総括	山中 玲子	
所属機関・部局・職	法政大学・能楽研究所・教授	
評価区分		
	A	研究期間の延長により、優れた進展が期待できる。
	B	一層の努力を要するが、研究期間の延長により、今後の進展が期待できる。
	C	研究期間を延長しても、十分な進展は期待できない。
評価にあたっての意見		
<p>能楽における所作単元を3D画像として構築し、それをつないでシステムをつくるというユニークな取り組みであり評価できるとともに、今後の展開が期待できる。</p> <p>一方、所作単元と実際の動きとの対応付けは、物理的に単純に対応するものとは限らないのではないかと。また、能の本質を理解するための課題がみえてきただけに、それを記述することが、そもそも可能なかどうか。といった困難な問いも起こってきている。自然言語処理の研究では、英語などのスペルと発音の対応を機械学習により抽出する手法がよく知られている。その手法が、所作単元と実際の動きの乖離を埋める際の参考になりそうである。</p> <p>今後は、所作単元という考えの有効性についての研究、及び、所作書に編みこまれた、もしくは編みこまれていない暗黙知の構造的分析を進めるとともに、広く共通概念を得るため、例えば、立命館大学アトリサーチセンターを拠点として展開されているような他の類似研究との比較検討も進めていただきたい。また、各班のグループリーダーを明確にし、研究体制を整備していただくとともに、成果発表について、特に一般及び海外に向けた発信を積極的に行っていただきたい。</p>		